

実施報告

キャンパス内情報配信用表示システムの 機能拡充と利用事例

佐々木 美智子 倉田 仁

キャンパス内の情報伝達手段として、配布物、掲示物、ポスター、ポータルサイト、電子メール等があるが、横浜キャンパスでは平成14年度よりキャンパス内に複数のプラズマディスプレイによる情報配信システムを設置し、学生に向けてオンライン・マルチメディアによる各種情報を配信してきた。3年間の運用実績を踏まえ、より多様な情報提供を迅速かつ効果的に行うべく、平成17年度後期に本システムの機能拡充・サービス拡充を実施した。本稿では、本システム概要と利用事例について紹介する。

キーワード：プラズマディスプレイ、マイポータル、サイバーキャンパス、マルチメディアシステム

1 はじめに

平成14年度よりキャンパス内の複数のプラズマディスプレイに大学や学生団体からのお知らせや、オンラインサービスの表示など、有効に活用されてきたが[1]、より多種多様な情報をきめ細かなスケジュールで配信するため、平成17年度後期に情報配信用表示システムの機能拡充・サービス拡充を実施した。

利用者へのサービス向上と、キャンパス内の活動をより多くの学生に伝える学内広報の拡充をめざして、導入時から平成18年度にかけて実施した様々な事例を紹介する。

2 機能拡充した情報配信用表示システムの概要

2.1 情報配信用表示システムと機能拡充

情報配信用表示システムは、図1に示す通り、プラズマディスプレイ及び情報メディアセンター入口に設置されている6画面マルチディスプレイにコンテンツを配信するスケジュール配信システムと6画面マルチ制御システムから構成される。情報メディアセンター事務室にあるスケジュール配信システムにてコンテンツを登録及びスケジュールを設定し、各ディスプレイに情報を表示す

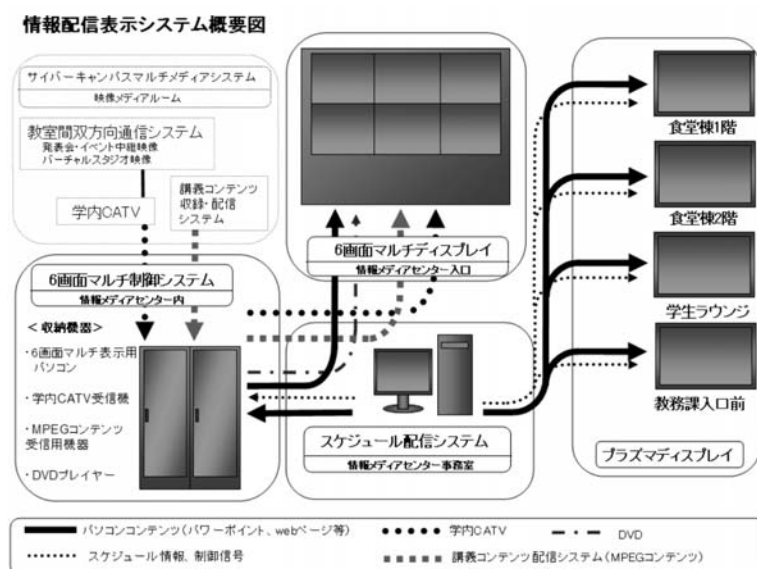


図1 情報配信用表示システム概要図

る。

今回、機能拡充した以下の2点について、詳細を各項目で説明する。

- ・情報メディアセンター入口に6画面マルチディスプレイを設置し、オンライン・マルチメディアによるコンテンツを表示する6画面マルチ制御システムの構築（2.2参照）
- ・スケジュール配信システムの更新による、操作性及び安定性の向上（2.3参照）

2.2 6画面マルチ制御システム

平成9年の情報メディアセンター開設当時より、センター入口に大型の電光掲示板が設置され、休講情報やセンターの開館時間等を表示してきた。[2]

その後継システムの検討にあたり、学生が自分に必要

SASAKI Michiko
 武蔵工業大学横浜事務室情報メディアセンター事務課事務員
 KURATA Hitoshi
 武蔵工業大学横浜事務室情報メディアセンター事務課技術員
 (業務委託)

な情報を瞬時に確認できる形態として、同時に6種類の情報を配信できる6画面マルチ制御システムに多機能化した。

また、学内CATV及び講義コンテンツ配信システムからの映像を放映することができるようにするとともに、サイバーキャンパスマルチメディアシステム[3]を経由し、キャンパス内の大教室で実施されている講演会や発表会を中継できるようにした。(図1参照)

2.3 スケジュール配信システムの操作性・安定性の向上

情報の内容(ファイル)ごとに表示期間や表示する場所(ディスプレイ)が異なるため、簡単にこれらを設定できるインターフェースであることが重要になる。スケジュール管理も容易で、図2のように表示したい順番にコンテンツを登録しておくことで、簡単に設定することができる。

以下に前システムと比較した操作性と安定性が向上した項目を挙げる。

(1) 専用の制御装置

今回導入のシステムでは、各ディスプレイを箱型の専用装置で制御している。前システムではデスクトップパソコンで制御しており、年数が経ち、設置環境の悪さや処理能力の限界でパソコンがフリーズするなど不安定な状態であった。

(2) ファイル管理の容易さ

表示したいファイルは事務職員が通常作業している共有ドライブにおいたまま、スケジュール登録時に指定すればよい仕様になった。前システムでは、スケジュール登録をする前にファイルのアップロード作業が必要で、容量が大きいと失敗するなどスムーズに行えないことも多く、ストレスになっていた。

(3) 複数のファイルを設定

複数のファイルを設定できるため、表示コンテンツごとにファイルを作成し、表示したい期間に応じてファイルごとに追加や削除を行える。前システムでは同時に複数のファイルを指定できなかったため、例えばパワーポイントの場合、1つのファイルに表示したいすべてのスライドを入れ、スライドの削除や追加を行っていた。スライドの数が増え画像やアニメーションで重たくなると(1)(2)で述べた不安定さを助長していた。

(4) 動画ファイルの設定

動画ファイルも通常のファイルと同様の手順でスケジュール登録ができるようになった。前システムでは動画

ファイルを登録すると、そのデータをサーバから各ディスプレイの制御パソコンへの一括配信を夜間に行っていたため、翌日にならないと表示されなかった。それが失敗することも多く、希望通りのスケジュールで配信が行えないことがあった。

(5) 表示ディスプレイのグループ別設定

表示したいディスプレイごとに、個別、全て、グループなど木目細かくスケジュール設定できる。通常、「学食1, 2階」「学生ラウンジ」を1つグループ、「メディアセンター」は個別に設定する。前システムでは、個別か全てのみを設定しかなく、1台でも別の内容を表示する場合は、1台ごと設定していた。

(6) スケジュール設定

前システムでは、期間・曜日・時間帯のみのスケジュール設定だったため、祝祭日や休校日ごとに個別に設定を行っていたが、今回導入のシステムでは予め、日付ごとにスケジュールを設定できるようになった。

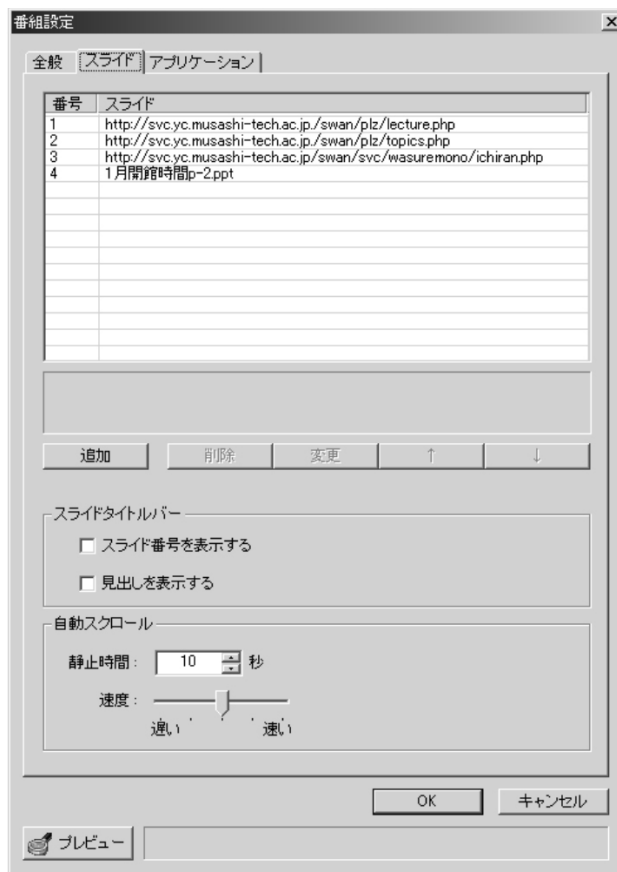


図2 スケジュール配信システムのコンテンツ設定画面

3 パソコンコンテンツ表示の利用事例

プラズマディスプレイにはweb ページ、パワーポイント、動画・静止画ファイルなどのパソコンコンテンツを

表示でき、6画面ディスプレイには、それらに加え、DVDの再生と、学内CATV及び講義コンテンツ配信システムからの映像を放映することができる。ここではパソコンコンテンツの利用事例を紹介する。

3.1 マイポータル内の講義情報・お知らせの表示

同じく平成17年度後期より運用を開始した個人向け情報を表示する横浜キャンパスのマイポータル[4]の情報を、プラズマディスプレイと6画面マルチディスプレイ(以下、大型ディスプレイ)に表示する仕組みを構築した。マイポータルに掲載されている①休講・補講等の講義情報、②大学からのお知らせである「みなさんへのお知らせ」、③学生から発信できる「誰でも投稿欄」を、大型ディスプレイのサイズに合わせて表示する。(図3参

照)
「みなさんへのお知らせ」と「誰でも投稿欄」は、上位15件を1件ずつ表示し、別途パワーポイント等を作成する手間を省力化するとともに、投稿された内容の周知の効果を高めることができる。

3.2 オンラインサービスの表示

Webページで提供しているオンラインサービス「教室別パソコン利用状況」及び「拾得物一覧」[5]を大型ディスプレイに表示する仕組みを構築した。Webページで表示している情報を、大型ディスプレイに合わせて見やすく分かりやすいレイアウトで表示するという手法により実現した。

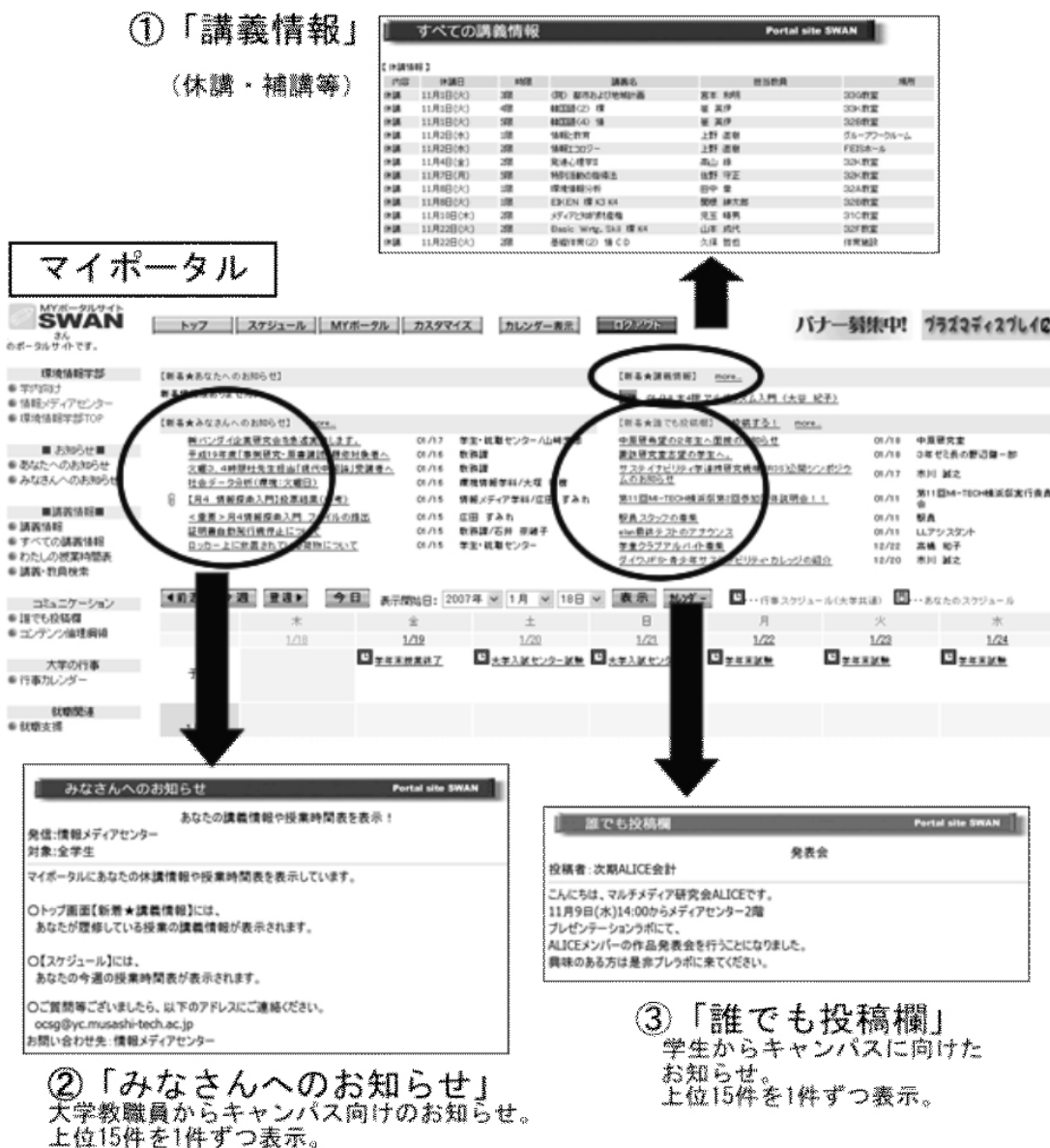


図3 マイポータルの講義情報とのお知らせの表示

「教室別パソコン利用状況」は、情報メディアセンター入口で表示することにより、現在どの演習室が使えるかをリアルタイムに確認でき、学生の利便性を高めるようにした。(図4参照)

教室別パソコン利用状況				
教室名	授業	空席数	利用率	2007/01/17 15:52
LL1教室	開放中	15/41	63%	<div style="width: 63%;"></div>
LL2教室	開放中	9/41	78%	<div style="width: 78%;"></div>
中演習室	開放中	14/61	77%	<div style="width: 77%;"></div>
演習室1	開放中	12/43	72%	<div style="width: 72%;"></div>
演習室2	開放中	15/31	51%	<div style="width: 51%;"></div>
メディア演習室	開放中	24/71	66%	<div style="width: 66%;"></div>
大演習室	開放中	18/65	72%	<div style="width: 72%;"></div>

※「授業」欄は教室パソコンが使用中かどうかを表します。
 ※各演習室の開放時間は情報メディアセンターのホームページをご覧ください。
 ※教室別授業利用状況はこちらをご覧ください。
 ※Netscape4.7では正しく表示されません。新しいブラウザを使用して表示してください。

図4 教室別パソコン利用状況の表示例

「拾得物一覧」は、持ち主が不明な拾得物を大型ディスプレイでも上位20件を表示することで周知を高めるようにした。(図5参照)

管理No	拾得物	拾得場所	拾得日	保管場所
06-1503	郵便貯金通帳	演習室1	2007-01-22	メディアセンター
06-1502	ホチキス(キーホルダー)	中演習室	2007-01-22	メディアセンター
06-1501	運転免許証	図書館	2007-01-22	メディアセンター
06-1499	フラッシュメモリ	中演習室	2007-01-19	メディアセンター
06-1498	漫画(はじめの一歩)	32A	2007-01-19	総務課
06-1497	教科書(Interactions 1)	33B	2007-01-19	総務課
06-1495	フロッピーディスク	情報メディアセンター内	2007-01-19	メディアセンター
06-1494	フロッピーディスク	演習室2	2007-01-19	メディアセンター
06-1493	メモ	大演習室	2007-01-19	メディアセンター
06-1492	髪留め	大演習室	2007-01-19	メディアセンター
06-1491	シャープペン	大演習室	2007-01-19	メディアセンター
06-1490	ニット帽	演習室2教室	2007-01-19	メディアセンター
06-1489	マフラー	メディアホール	2007-01-19	メディアセンター

図5 拾得物一覧の表示例

3.3 学部Webページ「ニュース&トピック」の表示

環境情報学部のWebページトップの「ニュース&トピックス」に掲載された記事の内容を一件ずつ表示するようにした。(図6参照)

学外に向けたWeb広報のページであるが、同時にキャンパス内に表示することで、学生向けにも広報することができる。

3.4 パワーポイントと動画コンテンツ

学生や教職員が作成できるコンテンツとして最も手軽なのが、パワーポイントによるお知らせの作成である。

大型ディスプレイにあったサイズで作成し、スライドショーやアニメーションを組み込むことで動きのある効



図6 学部Webページ「ニュース&トピックス」の表示例

果的なお知らせを作成できるようにした。

学生からの申請を受けて情報を配信した利用実績を以下にまとめる。新入生勧誘、学園祭案内、イベント・作品展案内のパワーポイントやビデオなど、工夫を凝らしたコンテンツで注目を集めている。

表1 各種団体からの申請件数(17年10月~18年12月)

団体種類	件数
研究室	4
学生団体	4
サークル	4
研究プロジェクト	3
計	15

その他、図書館、総務、学生・就職センター等の各部署からの依頼のパワーポイントを随時表示している。

4 6画面マルチディスプレイの利用事例

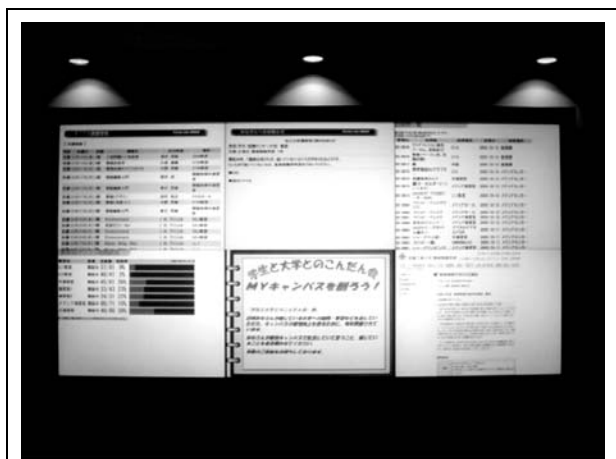
4.1 通常時

通常時は情報メディアセンターを利用する学生向けに、図7のように画面それぞれに異なる情報を配信し、学生は自分に必要な情報の確認することができるようにした。

4.2 講演会や発表会のライブ中継

サイバーキャンパスマルチメディアシステムの教室間双方向通信システムにて、大教室等でのイベントの中継映像を学内CATVに配信することにより、6画面マルチディスプレイに表示することができる。(図1参照)

その実施例を以下に挙げる。



「講義情報」	「みなさんへのお知らせ」 「誰でも投稿欄」	「拾得物一覧」
「教室別パソコン 利用状況」	「パワーポイントのお知らせ」	「ニュース&トピッ クス」のページ

図7 6画面マルチディスプレイの表示例

- ・中国・武漢大学との「国際ワークショップ」(2005年11月17, 18日開催) [6]
- ・学部4年生による「卒業論文発表会」及び博士前期課程2年生による「修士論文発表会」の一部
- ・博士前期課程1年生の英語による「修士論文中間発表」
- ・退職教員による「最終講義」

キャンパス内で行われているイベントの紹介とその臨場感を伝えるとともに、会場への参加を呼びかけた。4画面表示の大画面と音声を流すことにより行きかう学生たちが足を止め、イベント時の盛り上げに貢献した。(図8, 9参照)



図8 「国際ワークショップ」の中継



図9 中継映像に足を止める学生

4.3 イベント案内

受験生を対象にしたオープンキャンパスでは、キャンパス内のイベントを案内するための掲示を行った。図10の左上の画面では、情報メディアセンター映像メディアルーム内のバーチャルスタジオ[7]の体験コーナーの様子を中継し、デモに参加している様子を伝えることでイベントへの参加を促した。



図10 オープンキャンパスのイベント案内

同じくオープンキャンパスの開催中にミニプレラボにて行われた「ネパール研修検討会」の様子を中継し、学部の活動を紹介するとともに、見学も行った。(図11参照)



図11 ミニプレラボでのイベント案内(中継イメージ)

5 おわりに

キャンパスでは、連絡事項、注意喚起、イベント告知、キャンパスニュース、活動報告など、学生に向けた様々な情報が、様々な形で掲示、配信されている。キャンパス内にはいたるところにポスターが掲示され、キャンパスに活気に与えている。どのように情報を得るかは、一人一人の趣向や生活スタイルによって異なるだろう。

今後も情報配信表示システムのオンライン・マルチメディアの特色を生かした工夫を重ねていくと共に、様々な広報媒体の一つとして親しまれるよう努力していきたい。

参考文献

- [1] 佐々木美智子, 「プラズマディスプレイシステムの運用」, 武蔵工業大学環境情報学部情報メディアセンタージャーナル, vol. 4, pp. 77-79, (2003)
- [2] 国分 栄, 「情報メディアセンターの誕生とその課題について」, 武蔵工業大学環境情報学部情報メディアセンタージャーナル, vol. 1, pp. 67-73, (2000)
- [3] 大野昭彦・佐々木美智子, 「サイバーキャンパスマルチメディアシステム」, 武蔵工業大学環境情報学部情報メディアセンタージャーナル, vol. 6, pp. 81-86, (2005)
- [4] 佐々木美智子, 「環境情報学部マイポータル構築」, 武蔵工業大学環境情報学部情報メディアセンタージャーナル, vol. 7, pp. 75-78, (2006)
- [5] 萩原拓郎・関屋克自, 「キャンパスポータルサイト swan のコンテンツ拡充」, 武蔵工業大学環境情報学部情報メディアセンタージャーナル, vol. 4, pp. 56-61, (2003)
- [6] TOPICS2005 11 月「中国・武漢大学と国際ワークショップを開催」, 武蔵工業大学環境情報学部情報メディアセンタージャーナル, vol. 7, pp. 3, (2006)
- [7] Masayuki Goto, Brenda Bushell, Naomi Hara, "Construction of Educational Modules: The Cyber Campus Nepal Project", 武蔵工業大学環境情報学部情報メディアセンタージャーナル, vol. 6, pp. 22-29, (2005)